

## 小学校教諭 久谷梨英子

本の専門家である学校司書と共に創っていく授業は子どもも教師もわくわくします。そのわくわくした気持ちに支えられて、ものを見る目が深まり、言語感覚が磨かれ探究心が育って、自分の生き方を問い直す体験ができるのだと思うのです。学校司書の方々の深い専門性と熱意は岡山市の宝です。

## 中学校不登校支援員

不登校生徒の中には、本が、友達だったり未知の世界への導き手だったりする子がいます。クラスには入れなくても、図書室で好きな本を探して、時には司書さんに助けってもらって自分の欲する本を見つけています。あの子たちは、本が誘う世界の中で思いっきり翼を広げて自由に生きている。そのことが、現実世界へとびこんでいく力や勇気になると私は思っています。図書室は学校教育の欠かせない One Piece です。そこには子どもたちに寄りそってくれる司書さんがいます。

## 卒業生

学校図書館って誰にも邪魔されずにゆっくりできたり、「自分の“好き”や“気になる”」を探究できたりする場所。ケガとかしてないけど、特別辛いことがあった訳でなくても行ける保健室みたいな場所。一息つきたい子から、避難場所としてよく行っていた子も（保健室より気軽に）行けるところ。だからいつも変わらない安心のために同じ司書さんがいいなあ。

## 卒業生

小学生の頃、図書室(学校図書館)へ行く事がとても楽しみでした。低学年時、時間割に“としょ”がある日は、図工と同じくらいウキウキしながら学校へ行きました。

司書の先生と本の事も本以外の事もお話出来たことを、20歳をとうに過ぎた今でも楽しかった思い出として記憶しています。小学校の頃は6年間ずっとだったので、司書の先生が代わらずにいてくれたのは、幸せだったなあ。学校司書がころころ交代するのは心配です。「同じ先生がいてくれる安心感となじみやすさ」って大事です。

## 卒業生

学校の図書館、大好きでした！小・中学生の頃はたくさん並んだ本の中から、タイトルや装丁を眺めては本棚を行ったり来たりして心ひかれる一冊を探す時間は至福でした。（近所に図書館なんて無いので特に！）

たまに、図書委員や司書の先生に「オススメ」を教えてもらったり、感想を言い合う事も含めて大好きです。学校図書館ならではの安心感としたしみやすさ。これって親しみある図書館司書（学校司書）さんありき、だと思います。

## 卒業生

学校図書館は、「平日いつでも好きなだけ本が読める」だけでなく、「静かにゆっくりできる場所」であり、「いつも司書の先生がいる、安心する場所」でもありました。

先生がコロコロ変わってしまうと、その分ちょっと行き辛くなります。なるべくなら、司書の先生も長〜く同じ先生だと嬉しいな。

## 元小学校教諭

学校図書館は、人の成長に大切なものの多くを得ることができる場所です。インターネット社会になっても本を開いて得られる情報は、大変魅力的でどこか温か味があります。ページを開く度に、指先や視覚から心にまで浸み渡ってくるでしょう。

また、図書館のシステムは一般のそれと同じもので、社会のルールを学ぶ大切な役割を果たしています。きちんと管理された学校図書館を守っていきましょう。